

働く女性の自殺が大きく増加

——自殺対策白書

(1万1,718人)では増加している。

2020年は下半期に増加

2020年の自殺者数の推移を

月別にみると、おおむね下半期のほうが上半期よりも自殺者数が多い。最も多いのは10月、最も少ないのは2月となっている(図)。

男女別にみると、女性のほうが月によるバラツキが目立つ。男性は最少の2月(1,031人)に対して最多の10月(1,341人)が約1.3倍にとどまっているが、女性は最少の2月(433人)に対して最多の10月(889人)が2倍強にのぼっている。

厚生労働省は11月2日、「2020年度我が国における自殺の概況及び自殺対策の実施状況」(2021年版自殺対策白書)を公表した。2020年の自殺者数は2万1,081人で、11年ぶりに増加に転じた。男性の自殺者数が11年連続の減少となる一方、女性の自殺者数は増加。とくに、女性の「被雇用者・勤め人」の増加が目立っている。また白書は、子どもの自殺が増加傾向にあることや、その予防対策も紹介している。

女性の自殺者は2年ぶりの増加

白書によると、わが国の2020年の自殺者数は2万1,081人で、前年から912人(4.5%)増加した。増加は11年ぶり。男女別にみると、男性は11年連続での減少、女性は2年ぶりの増加となっている。

自殺死亡率(人口10万人当たりの自殺者数)も自殺者数と同様の傾向で、2020年は前年より0.8人上昇して16.8人となっている。年齢階層別にみると、近年は全体的に低下傾向にある。しかし20歳未満では、1998年以降おおむね横ばいで推移後、近年上昇傾向にある。20歳代や30歳代はピーク時から低下がみられるものの、減少率は40歳代以上と比べて小さくなっている。

被雇用者の自殺が増加

自殺者数の職業別推移について、自殺統計での職業の分類が改められた2007年以降でみると、2019年までは、横ばいを続ける「学生・生徒等」を除いては、おおむねいずれの職業も減少傾向にあった。しかし2020年は、前年と比較して「自営業者・家族従業者」(1,266人)は減少となったものの、「被雇用者・勤め人」(6,742人)や「学生・生徒等」(1,039人)、「無職者」

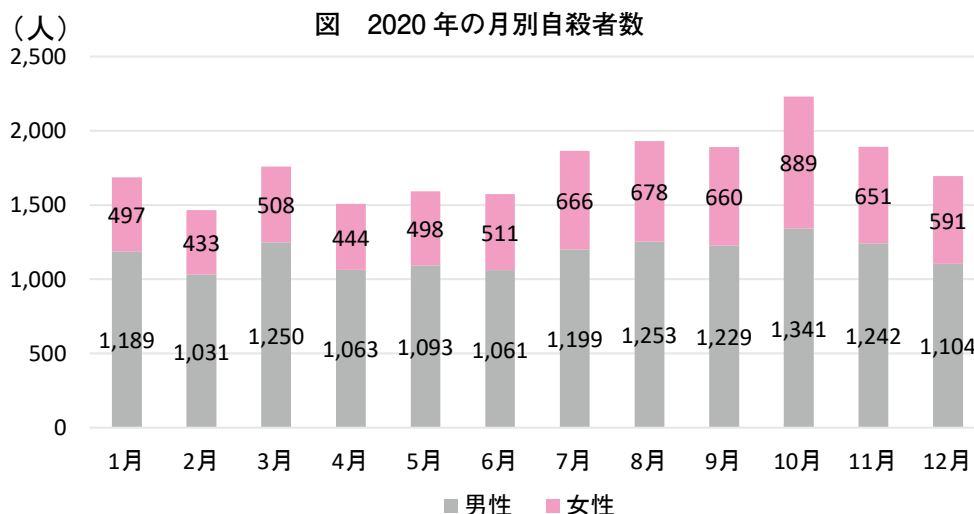
著名人の自殺報道も影響か

白書は2020年下半期の動向について、「相次ぐ著名人の自殺と自殺報道から影響を受けたとみられる自殺の増加が特徴の1つであった」と指摘したうえで、特に影響が大きかったとみられる2人の俳優の自殺及び自殺報道について、過去5年の自殺者数の日次推移を基にした予測値と2020年の自殺者数の実測値との差をもとに分析している。それによると、俳優の自殺報道の当日および翌日に自殺者は急増。両日以降も予測値を大きく上回る状況が続いた。増加率を男女別にみると、女性のほうが高くなっている。

女性について詳細な集計結果を紹介

2年ぶりに自殺者が増加した女性について、白書は

図 2020年の月別自殺者数



資料出所：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

詳細な集計を示している。2020年と過去5年平均を比較すると、職業や立場によって増減に大きな差がみられる。「被雇用者・勤め人」が381人と大きく増加しており、次いで「学生・生徒」が140人増加している。他方、「その他無職者」は98人減少、「主婦」は70人減少となっている。

さらに「被雇用者・勤め人」について、職業の小分類別に2020年と過去5年平均を比較すると、最も増加したのは「事務員」で66人増、以下「その他のサービス職」が63人増、「販売店員」が41人増、「医療・保険従事者」が33人増、「その他の専門・技術職」が29人増、「飲食店店員」が16人増となっている。

コロナ禍での労働環境の変化が影響か

女性の自殺について、原因・動機別の状況を2020年と過去5年平均の自殺者数で比較すると、「勤務問題」が34.8%増と大きく増加しており、これに「その他」が26.1%増、「男女問題」が26.0%増などと続いている。

さらに「勤務問題」の内訳を、同様に2020年と過去5年平均で比較すると、増加率が最も高いのは「職場環境の変化」で98.3%増、次いで「職場の人間関係」が高く45.7%増となっている。白書は「2020年は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により労働環境が変化した可能性があり、そのこととの関連が示唆される」と指摘している。

国際比較で目立つ若年の自殺

国際比較をすると、わが国における若い世代の自殺は深刻な状況にあることがわかる。わが国の10歳代および20歳代の死因の第1位が自殺で、第2位は不

慮の事故、第3位が悪性新生物となっている。この世代で死因の第1位が自殺となっているのは、先進国(G7)では日本のみの状況にある。

子どもの自殺が増加傾向

わが国の小学生、中学生、高校生の自殺は近年増加傾向で、2020年は499人と、前年(396人)から100人以上増加している。2020年と過去5年平均の比較を男女別にみると、2020年のほうが男女ともに多いが、特に女子において増加が顕著となっている。

2020年の自殺について、時期による推移をみると、一斉休校の要請が出された3月2日直後に大きく減少している。一方、緊急事態宣言が全面解除され、全国で学校が再開されるようになった6月に急増したほか、次年度の進路を検討し始める時期とされる11月にも大きく増加している。

子どもの自殺予防に啓発動画を発信

白書は2020年度の自殺対策の実施状況も紹介しており、社会全体の自殺リスクを低下させる取り組みとして、児童虐待や性犯罪・性暴力の被害者への支援の充実、ひとり親家庭に対する相談窓口の充実等を紹介している。

また、いじめを苦にした子どもの自殺予防としては、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置に必要な経費の補助のほか、「子どもの人権SOSミニレター」の小中学校の児童生徒への配付、YouTubeでの自殺予防啓発動画の発信などが紹介されている。

カード式ガイダンスツール

VRTカード

カード式ガイダンスツール「VRTカード」は、心理検査「職業レディネス・テスト」の職業興味と職務遂行の自信度に関する項目を1枚ずつのカードに印刷した、親しみやすく・扱いやすいキャリアガイダンスツールです。

54枚のカードに書かれている仕事内容への興味や、その仕事を行うことについての自信を判断していくことで、興味の方向や自信の程度が簡単にわかります。



●ご注文は下記お問い合わせ先またはホームページから
https://www.jil.go.jp/publication/hrsys/vrtc_card.html

販売価格

カード	880円(税込)
カードセット(カード+記録用紙)	990円(税込)
利用の手引	550円(税込)
結果・記録シートセット(20枚入)	110円(税込)
結果・整理シートセット(20枚入)	220円(税込)

(ご注文・お問い合わせ先) 独立行政法人 労働政策研究・研修機構(JILPT) 成果普及課

〒177-8502 東京都練馬区上石神井4-8-23 Tel:03(5903)6263 Fax:03(5903)6115 E-mail:book@jil.go.jp